

高等学校商業科採点基準

3枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 (例)		採 点 上 の 注 意	配 点
1	1	ナショナル・ブランドとは、全国的に広告され販売されているという意味合いから、メーカーの商標のことをさすのに対し、プライベート・ブランドとは、商業者が自ら企画した商品に独自に付与する商標のことをさす。		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	10
	2	銀行口座や年齢制限、その他の資格審査が不要であるため、だれでも簡単に利用できる。		順序は問わない。 問いを正しくとらえていれば、内容は異なってもよい。	各 5×2
		プリペイド式であり、あらかじめ購入している範囲までしか使用できないため、利用の限度が管理できる。			
	3	(1)	損失額	¥2,200	損失額と損失率がともに合っているものだけを正答とする。
損失率			5.5〔%〕		
(2)	¥198,940			5	
2	1	業務の効率化を目的とするなど、ビジネスに関する情報を処理する具体的課題を設定し、アルゴリズムについて十分思考させた上で、課題の解決に向けた具体的方策を考えさせるとともに、問題の分析からテストラン、デバッグに至る一連の実習を取り入れる。		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	10
	2	実践的・体験的学習を重視するとともに、コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を図ること。		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	10
3	1	ウェブサイトの電子掲示板の書き込みやアンケートの結果、コールセンターに寄せられた情報を分析して、特定の用語の出現回数や時系列データなどを分析する手法。		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	10
	2	市場競争の結果として、世間から一般的な規格と認知されることによって確立されていく、公的な機関が定めた規格ではない事実上の標準規格のこと。		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	10

高等学校商業科採点基準

3枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 (例)		採 点 上 の 注 意	配 点	
4	1	利用者の視点	金融技術の進展などを背景として、利用者保護法制の対象となっていない金融商品が出現するなど、利用者被害が生じるケースがみられ、包括的・横断的な利用者保護ルールを整備し、利用者が安心して投資を行える環境を整備する必要があったこと。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各 5 × 3	25
		市場の視点	わが国の家計金融資産は預貯金が中心となっており、「貯蓄から投資」が課題であったとともに、投資の受け皿となる「市場」のあり方をめぐり、市場の公正性・透明性に課題があったことから、それを改善し、わが国市場に対する信頼を回復させることが不可欠であったこと。			
		国際化の視点	金融・資本市場のグローバル化が進展する中、諸外国・地域では、市場法制や市場インフラの整備が進められており、国際市場としてのわが国市場の魅力を高めるための取組を急ぐ必要があったこと。			
2	ア			10		
5	1	(1)	19.1 [%]		各 5 × 6	40
		(2)	0.7 [回]			
		(3)	108.1 [%]			
		(4)	45.2 [%]			
		(5)	71.3 [%]			
		(6)	72.4 [%]			
	2	総資本回転率			5	
3	エ			5		

高等学校商業科採点基準

3枚のうち3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 (例)		採 点 上 の 注 意	配 点												
6	記号	A〔案〕	記号と理由がとも に合っているもの だけを正答とする。 内容を正しくと らえていれば、表 現は異なってい てもよい。	10												
	理由	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>A案</th> <th>B案</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>年間製造原価</td> <td>5,400万円</td> <td>6,500万円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td>600万円</td> <td>500万円</td> </tr> <tr> <td>支払利息</td> <td>90万円</td> <td>120万円</td> </tr> <tr> <td>総原価</td> <td>6,090万円</td> <td>7,120万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>年間製造原価に減価償却費及び支払利息を加えると、A案が6,090万円、B案が7,120万円となり、A案の方が総原価が少ないことから、A案を採択する。</p>				A案	B案	年間製造原価	5,400万円	6,500万円	減価償却費	600万円	500万円	支払利息	90万円	120万円
	A案	B案														
年間製造原価	5,400万円	6,500万円														
減価償却費	600万円	500万円														
支払利息	90万円	120万円														
総原価	6,090万円	7,120万円														
7	1	440〔万円〕		10												
	2	エ		10												
	3	(1)	26〔日〕		各 5 × 2											
		(2)	エ													
8	1	ウ		5												
	2	<p>この生徒は、民法上の相続人及び法定相続分に関する理解が不足していることから、まずは誰が相続人に該当するのかを理解させ、次に法定相続分を理解させるといった手順を踏むことが望ましいと考える。</p> <p>民法の規定により、被相続人の配偶者及び子が相続人となることが定められており、妻の洋子さんと子の正一郎さんは相続人となるものの、慎次郎さんの妻である雅子さんは相続人とはならず、慎次郎さんの子である奈美さんが代襲相続人となることを指導する。</p> <p>次に、法定相続分について指導する。法定相続分については、民法において、「子及び配偶者が相続人であるときは、子の相続分及び配偶者の相続分は、各2分の1とする。」と定められており、さらに「相続人となる直系卑属の相続分は、その直系尊属が受けるべきであったものと同じとする。」と定められていることから、子の正一郎さん及び慎次郎さんの子である奈美さんの相続分は、同一となることを理解させる。</p> <p>よって、民法上の法定相続分は、妻の洋子さんが2分の1、子の正一郎さんが4分の1、慎次郎さんの子である奈美さんが4分の1となることを指導する。</p>	内容を正しくと らえていれば、表 現は異なってい てもよい。	15												
	3	<p>自筆証書遺言は、費用もかからず、いつでも書けるというメリットがある一方、内容が複雑な場合には、法律的に見て不備な内容になってしまう危険があり、後に紛争の原因となったり、無効になったりしてしまう場合もある。</p> <p>それに対して、公正証書遺言は、遺言者が公証人の前で遺言の内容を口授し、それに基づいて、公証人が遺言者の真意を文章にまとめ、公正証書遺言として作成するものである。</p> <p>よって、公正証書遺言は、自筆証書遺言と比べて、安全性の高い遺言方法であるといえる。</p>	内容を正しくと らえていれば、表 現は異なってい てもよい。	5												